

令和 2 年度

事業所名 : グループホーム きらら

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0372100974		
法人名	医療法人 徳政堂		
事業所名	グループホーム きらら		
所在地	〒028-4304 岩手県岩手郡岩手町大字子抱8-110-7		
自己評価作成日	令和2年11月30日	評価結果市町村受理日	令和3年1月18日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当事業所は、国道4号線から少し離れた場所にあり、車の通りの少ない静かな場所に位置しています。周囲は田園や姫神山などが一望でき、一年を通じて四季の移り変わりを楽しむことができ、昔から変わらない田舎の風景が残っている所です。理念にも掲げているように、職員と入居者が共に暮らし、職員が壁を作らない関係を心がけ、常に入居者の方々が自分らしく生活できるように、一人ひとりの不安やニーズを把握し、極め細やかな対応を心掛けることで穏やかに過ごせるよう支援しています。農繁期時期には野菜作りや花植え、草取りなどが出来る場所もあります。また、母体が医療法人であることもあり、定期的な訪問診療と訪問看護など医療支援があり、健康管理が充実しています。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/03/index.php?action_kouhyou

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

入居者一人一人が「自分らしく、生き生きとした生活を送る」を主とし、それを支える5つの理念を掲げ、職員、入居者が常にアットホームな関係を築き、維持出来るようきめ細やかな支援に努めている。医療法人運営を活かし定期的な訪問診療と訪問看護などの医療連携体制も確立され、入居者、家族からも安心感を持たれている。災害時や日々の生活の中で、運営推進委員や地域の方々との関わりも多く、コロナ禍の中でも、中学生の事業所屋外清掃活動や近隣の方々からの野菜や花の苗の提供、自主的な事業所周辺の除雪作業もあり、また入居者も中学校への御礼に雑巾作りに勤しんでいる。食事と運動の関連性を考慮し、入居者の今ある体力を維持するために、体操を行ったり室内を5周歩くなど、職員それぞれの工夫やスキルを活かした取り組みを行っている。音楽に合わせて元気一杯歩き笑い声も絶えず、法人・事業所・職員が一体となって介護サービスの質の向上を目指して取り組んでいる事業所である。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0871 岩手県盛岡市中ノ橋通2丁目4番16号
訪問調査日	令和2年12月14日

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに ○ 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている ○ 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが ○ 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念をいつでも見れる場所に掲示している。職員が壁を作らず共に過ごすことを常に心がけている。	「自分らしく、生き生きとした生活」を支えるための五つの運営理念を設定し、職員の目の届くところに掲示し、常に共有を図ると共に、職員全員が理念を意識したサービスの提供に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	今年は、コロナウィルス感染症の流行に伴い、外部との交流がほぼなくなっている。	地区振興会に加入し、地域の一員として受け入れられている。コロナ禍の中、昨年までの交流が難しい現状にあるが、中学生の事業所屋外の清掃活動、地域の方々から野菜や花の苗の提供や事業所周辺の除雪、また小学生は回覧版を届ける際に拾った栗を持って来てくれる。事業所から中学校には利用者の手作り雑巾、小学校にはふくろう人形を届ける等、コロナ禍にあっても、交流が途切れないよう取り組んでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の中学校生徒のボランティアの受け入れ(屋外清掃)などを受け入れている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者アンケートに対する意見を頂戴したことや、中学生に参加していただき、介護へ関心を持って頂く機会となった。	運営推進会議では町地域包括支援センター職員、民生委員、地区振興会会長、利用者家族などが参加し、事業所の現状報告や家族アンケート結果、ヒヤリハット報告等を行い、会議で出された意見や要望はサービスの向上に活かしている。委員の方々には、地区との行事の段取りを組んで頂いたり、避難訓練や災害時には率先して見守り等の協力をいただいている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に、地域包括支援センターから出席を頂き、運営や活動状況の報告を行っている。また、待機者情報を定期的に報告している。	町の地域包括支援センター職員が運営推進会議メンバーとして出席している事もあり、事業所の運営状況はもとより、「きらら通信」を通じて利用者の活動状況も把握していただいております。定期的な待機者数も報告している。町からは研修や会議の案内が入るなど関わりも多く、顔の見える関係にあり、協力関係は出来ている。	

令和 2 年度

事業所名 : グループホーム きらら

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束を行わないために、職員間で情報を共有し対応について検討を行う事で、身体拘束を行わないケアに取り組んでいる。また、施錠も防犯の為夜間のみとしており、日中は屋外へ自由に入出している。	身体拘束をしないケアに全職員が取り組み、特にスピーチロックについては研修を通して共有化を図り、日々の業務の中でも意識し、誤解を招く言い方はしない等、お互い気を付けながらケアに取り組んでいる。玄関の施錠は保安のため夜間のみとし、玄関前の庭には、職員の見守りのもと自由に入出りできるようにしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされないよう注意を払い、防止に努めている	勉強会を行い虐待について学び、困りごとやケア方法について気兼ねなく相談できる職場環境作りに努め、虐待防止につなげている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	パンフレットなどを活用し制度について学んでいる。現在対象者はなく、活用には至っていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	都度、説明を行い不明な点等ある場合はいつでも声をかけていただくよう家族へお話ししている。ご理解、納得いただけるよう努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族アンケートを行い、意見や要望を把握する機会を設けている。また、内容について職員間で話し合い、結果をお便りで報告するとともに、きらら通信やホームページに反映させ改善を図っている。	家族アンケートを実施し意見や要望を伺い、内容を精査すると共に職員間で話し合いを持ち、結果をお便り等で報告し改善へ繋げている。毎月発行の「きらら通信」で利用者の様子をコメントと写真で細やかに知らせることで、意見や要望を伺うきっかけを作り、運営に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	部署ミーティングなどで話し合い、運営会議で報告している。	職員の意見や要望等は日常の業務の中や朝夕の引き継ぎ時に話される事が多く、例えば利用者の体重増加が見られた時には、職員の意見や要望を聞きながら、体操や動き方を見直したり、手芸やレクリエーションなども取り入れている。	

令和 2 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム きらら

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者からの報告をもとに対応している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修への参加などをすすめ研鑽に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	GH協会に加入し、情報を得ているが今年はほぼ参加できずにいる。ウェブを活用した参加に取り組みたい。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人やご家族の話を傾聴することにより、寄り添った関りが持てることを意識し、話しやすい雰囲気を作れるよう心掛けている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	対面で話すことを心がけ、状況により電話等を活用しコミュニケーションをとっている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族からよくお話を聞き、適切な対応が出来るよう心掛けている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	理念に基づき、職員が壁を作らずに互いに教えあったり、手伝ったりし同士として暮らせるよう心掛けている。		

事業所名 : グループホーム きらら

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月、生活の様子や気にかかることなどを報告書に記載し送付している。必要時には電話等で様子をお知らせし、家族との情報共有を図っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域行事などの参加を行っていたが、今年はほとんど行う事ができていない。	コロナ禍で地域行事へ参加したり馴染みの人と会うことが出来ない状況にあるが、花見見物、道の駅「石神の丘」、紅葉狩りなどにドライブを兼ねて出掛けている。ドライブの際は利用者の自宅近くを通り馴染みの場所との関係維持に努めている。月1回来所する理容師との触れ合いや小・中学校へ雑巾やふくろう人形を作って届けることなどにより、相互の交流が途切れないよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が間に入り、コミュニケーションの支援を行っている。また、利用者同士が交流できるよう施設内の行事や作業等の工夫を行っている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も、外出先等であった際は声を掛け合い、近況を伺うなどしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の会話を大切にし、本人の希望や要望をくみ取るよう努め、職員間で情報共有している。	日常の会話を大切にし、その中で出た利用者の言葉を朝夕の引き継ぎの中で取り上げて職員間で共有し、利用者の希望に添えるよう対応している。ほとんどの方は自分の意思を伝える事が可能だが、出来ない方は表情や動作から希望や意向を把握するよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族から聞き取りを行うとともに、日常の会話からも情報収集を心掛けている。		

令和 2 年度

事業所名 : グループホーム きらら

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人一人に合ったケアの提供が出来るよう日常の様子観察を行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人本位を前提とし、本人・家族から希望や意向を聞き取り、計画書に反映させている。	所長兼管理者が介護プランを作成している。職員2人で3人の利用者を担当する体制としている。ケア評価・モニタリングの結果を、利用者個人ファイルに3か月分記録している。毎月振り返りを行い、管理者作成の様式に個人ごとの「短期目標」を記入できるよう12月から改め、6か月毎の見直しも3か月毎或いは随時としている。プラン変更は、家族等に事前説明・口頭同意の上、毎月の来所の際又は郵送で同意を得ている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日常の記録を行うと共に、文章化されなかった細かいことも毎日の申し送り等で情報共有し、ケアの実践や計画の見直しに反映させている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	出来る限り在宅と同じ生活が出来るよう心掛け、その人らしく生活できるよう努めている。また、様々なニーズに対応できるよう柔軟さを意識している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ドライブで居住地域へ出かけてみたり、読み聞かせボランティアを受け入れるなどして楽しんで頂いている。図書館を活用し、地域芸能などのDVDを皆さんで楽しんでいる。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医とは、日常定期に連絡を取り合い情報共有を行っている。定期的な検査受診など対応している。	利用者全員が法人内の医師をかかりつけ医とし、訪問診療で週3回定期的に受診している。週1回法人内の訪問看護ステーション看護師の訪問もある。法人以外の専門医受診に際しては家族が付き添い、家族に事前に必要なメモを渡し、医師と情報共有出来るようにしている。職員7名のうち2名が看護師の資格を有し、家族からも安心感を持たれている。	

令和 2 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム きらら

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護師へ、日常の様子を伝え情報の共有を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時は、家族・医療機関と情報を共有し連携を図っている。本人や家族の不安を聞き取り医療機関へ情報提供している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取り作成し、健康状態・家族の意思を含め、柔軟な対応が可能となるよう協議できる。	看取りに関する指針を有し、看取りを行う方向を持ちながら、現状、法人を経営母体とする医療機関で行っている。医療的ケアを必要とするぎりぎりの時点までグループホームで対応し、家族の意向を伺いながら、主治医の指導のもと法人の医療機関に入院する場合が多い。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	資料や勉強会など学びの機会を設けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を実施し、全職員が行動概要を把握できるよう努めている。	毎月避難訓練を実施し、職員一人一人が動きを把握し、行動出来るようにしている。年2回の総合訓練では、事業所が水害危険区域に指定されている事もあり、地区振興会会長や民生委員、地域住民が駆けつけるなどの協力体制ができています。食糧は2日分、物によっては2週間分を備蓄し、法人からも備蓄物の支援を受けられる体制となっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入浴、排泄時は最小限の介助にて対応し、声掛けの声の大きさも個々に合わせて行うよう心掛けている。敬意の念を忘れない対応を心掛けている。	利用者一人一人の理解度に合わせた声掛けに努め、声の高さ大きさにも配慮した言葉掛けと、敬意の気持ちを持った言葉遣いを心掛けている。トイレ誘導や入浴の時も「○○だから○○しましょう」と二段階の声掛けを丁寧に行って、行動の理由が分かりやすいよう心掛けている。	法人と事業所が連携し、身体的な制限やスピーチロック等、職員間で相互にチェックし合うことを徹底して今日に至っていると拝察します。利用者視点の対応は職員全員の止むことの無い日常的課題であり、よりよい介護の実践に向け、今後とも研修や相互チェックなど、工夫された取り組みを進められることを期待します。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の言葉を引き出す声掛けの工夫や、表情・しぐさなどの表現にも着目し、くみ取るよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員からの押し付けにならないよう心掛け対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節に合った服装が出来るよう支援している。個別の整容の支援も行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	誕生日や行事など、利用者の要望に合わせた献立を作成し、食事を楽しんで頂けるよう支援している。食べる事だけでなく、準備や調理など一緒に行い楽しんで頂いている。菜園で収穫した野菜を取り入れるなど工夫している。	献立は、担当になった職員が事業所にある食材と畑で採れた野菜を利用し、朝、昼、晩と工夫しながら調理し提供している。誕生日や行事の時は利用者の要望を伺い、好みのものを提供し喜ばれている。月1回から2回のお楽しみ夕食会では、希望に応えノンアルコールビールも提供している。利用者はおやつ作りや野菜の皮むき等、職員と一緒に楽しみながら行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	法人の栄養士に献立をチェックしてもらい助言等を受けている。食事や水分摂取量を観察し、必要な量を摂取できるようにしている。		

令和 2 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム きらら

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、職員が声掛けを行い促している。個々に合わせ必要時は介助を行っている。週2回は入れ歯洗浄剤を使用し清潔保持に努めている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の状況を把握し、声掛けや誘導等を行っている。トイレでの排泄が出来るよう支援している。	トイレが居室2部屋の間1カ所ずつ設置され、どの部屋からも使用しやすいよう配慮されている。リハビリパンツ利用の6名は、自主的にパットを交換又はその練習をしている。排泄誘導が必要な2名の利用者の夜間の誘導は、寝る前と起床時としているが、その他の方については、転倒リスクを避けるため無理に起こさずに、それぞれが自力でトイレで排泄している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	かかりつけ医へ状態を報告し、その都度指導を受けている。毎日の運動や水分摂取、食事の内容等に気を付けている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週2回の入浴を行っている。個々の状態に応じ、足浴や清拭等を行っている。	入浴は、週2回を基本に長い人で30分程度、午前又は午後のいずれかとしている。皆のいるところでは言えない愚痴や昔の話などを語れる場所となっている。入浴を嫌がる利用者には、気持ちや体調を見計らいながら、言葉掛けを工夫して勧めている。時には奥中山温泉も利用している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	自然な流れで生活できるように支援しているが、閉じこもりとならないよう気を付けている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	かかりつけ医やかかりつけ薬局からの薬事情報を確認している。服薬内容等については申し送り等を活用し職員間で情報共有している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯たたみや、食器拭き、モップかけなど個々に出来ることを任せることで役割を持った生活が出来るよう支援している。嗜好品についてはノンアルコール飲料などで代用し楽しんで頂いている。		

令和 2 年度

事業所名 : グループホーム きらら

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。 又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散策などを行っている。ドライブも行っているが、感染症対策で回数は減っている。家族との外出も控えていただいている。	コロナ禍で家族との外出が出来ない現状にあり、月1回の外出行事を計画し、お花見会、道の駅「石神の丘」、紅葉狩り等に出掛け、また以前住んでいた場所近くをドライブするなど、外出する機会を確保している。天気の良い日は事業所周辺の散歩や日向ぼっこをしたり、畑の野菜の見回りや、花壇の水遣りをする等、工夫をしながら外出支援に努めている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個々に合わせた援助を行っている。トラブルにならないよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	電話の取次ぎなどを行い対応している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	皆さんで作った作品を掲示したり、季節に合わせた装飾を行うなどして、居心地の良い楽しめる空間作りに努めている。	ホールには、テーブルや椅子、ソファ、大型テレビが置かれている。エアコン、パネルヒーターで室温が調節され、天窓があることで風通しも良く、開放的な作りとなっている。廊下には職員と一緒に作成した貼り絵や紙コップ・トイレトーパーの芯を使った装飾品、ツリーやお正月の飾り等、季節観を出しながら、居心地よく過ごせる工夫をしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	周囲からの死角スペースがあり、入居者同士で活用している。ウッドデッキでは、思い思いの時間にひなたぼっこを楽しんでいる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れたものや私物を持ち込めるようにしており、ハンガーラックや衣装ケースなど持ち込んでいる方もある。安全な環境となるよう助言や整備を行っている。	居室にはベッド、洗面台、箆箆が設置され、夏はホールのエアコン、冬はパネルヒーターで室温を管理している。利用者は慣れ親しんだ物や、家族写真、行事の際に撮った写真、色紙等の他、自分の作ったものを飾り、居心地よく過ごせるよう工夫しながら居室作りをしている。居室の掃除は職員と一緒にモップ掛けやベッド周りの雑巾掛けを行なっている。	

令和 2 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム きらら

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内はバリアフリーで行動線上には手すりが設置されている。ネームプレートの設置などわかりやすい工夫をしている。		